

では次に1年経って、今自治会で必要とされていることをお聞かせ下さい。

山本 田井では床上浸水が15世帯でしたが、家屋は修復されて物質的には回復したと思っています。

しかし警報が出る度に、決壊した箇所が仮復旧のままなので、また崩れるのではないかと不安です。精神的な不安が消えないわけです。堤防等が決壊した箇所には復旧するだけでなく、それ以上の工事をしてもらえるよう要望したいと考えています。



猛暑の中、懸命な作業が続きました～下河野自治会～

山木 口ではもう二度とこんなことは起きないだろう、大丈夫

だろうと言いながらも、誰も気持ちの上では安心なんかしていません。自分の地域をみんなの目で見て、残っている危険な所をどうするのか、考えていく必要があります。

秋武 今回災害復旧に取り組み中で、一番うれしかったのは隣接する横山自治会から応援をいただいたことでした。10日の9時ごろには来られて、国道の流木などを片づけてもらいました。

災害から二年経ちましたが、なかなか日常生活で緊張が取れません。雨が降ったら川の水が気になるし、警報が出たら外出先から戻ってきます。

これから自主防災組織の見直しに取り組みますが、決壊の恐れがある所には、水位が上がったら警報が出るような装置が欲しいと思っています。

これからの地域づくりと社協への期待

鶴崎 最後にこれから地域づくりを進める中で、社協に期待することがあればお聞かせ下さい。

山木 平常時にこそ、もっと社協の存在感を示してほしいですね。

ふれあい喫茶で社協の職員と住民が交流している様子を見ると、これさええんやな、こんな機会をもっと利用してほしいなと思います。

山本 これからは地域で福祉のリーダーを育てることに力を入れて欲しいです。

ボランティアをすることで自分の心が豊かになる、そう思える人が増えると地域がよくなるので、社協はもっと努力して欲しいです。

秋武 今回の災害では、地域がひとつにまとまるという普段では、なかなかできないような経験をさせていただきました。

山木 今回の災害をきっかけに社協と密に接する機会が持てました。社協はもっと自分たちのしていることをPRすべきだと思います。

自治会も高齢化していますし、子どもが少なくなっています。このままであれば、力のない地域になっていくのではないかと心配しています。社協は地域が抱えて

いる課題に、もっと関わっていただきたいと思います。



田井自治会 台風9号豪雨災害写真展
災害復興支援ふれあい喫茶 (H21.10.25)

山本 高齢化が進む中、社協の活躍の場がもっと増えてくると思います。安心のまちをつくるには住民のつながりが必要で、そのため心の教育を進めてほしいと思います。

鶴崎 みなさんお忙しい中、長時間お話を聞かせていただき、本当にありがとうございます。社協もさらに頑張らねばと思います。

まだまだ暑い日が続きます。どうぞお元気で、ご活躍下さい。